

製品名: RIP140 (アセチル Lys158) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab06255

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	NRIP1
別名	NRIP1; Nuclear receptor-interacting protein 1; Nuclear factor RIP140; Receptor-interacting protein 140
遺伝子 ID	8204.0
SwissProt ID	P48552
免疫原	K158 のアセチル化部位の周囲にヒト RIP140 由来の合成アセチルペプチド。

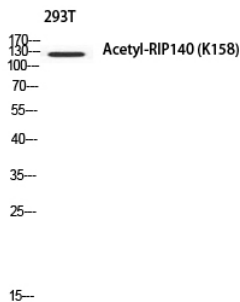
背景

核内受容体相互作用タンパク質 1 (NRIP1) は、核内受容体のホルモン依存性活性化ドメイン AF2 と特異的に相互作用する核タンパ

ク質です。RIP140としても知られるこのタンパク質は、エストロゲン受容体の転写活性を調節します。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患: NR1P1の遺伝的変異は、子宮内膜症の素因となる可能性があります。、ドメイン: 核内受容体に対する親和性の異なる9つのLeu-Xaa-Xaa-Leu-Leu (LXXLL) モチーフを含みます。C末端のLTKTNPILYYMLQKモチーフは、RAARおよびRXRBホモダイマーおよびヘテロダイマーとのリガンド依存的な相互作用、コリプレッサー活性、およびRARA/RXRBとのHDAC3複合体の形成に必要です(類似性による)。少なくとも4つの自律的抑制ドメイン(RD1-4)を含みます。RD1はヒストン脱アセチル化酵素(HDAC)非依存的なメカニズムで機能しますが、RD2、RD3、およびRD4は細胞の種類に応じて、HDAC依存的または非依存的なメカニズムで機能します。RD2はCTBP結合に依存します。機能:NR3C1、NR3C2、ESR1などのステロイド受容体による転写活性化を調節します。また、核ホルモン受容体による転写抑制も調節します。、PTM:アセチル化は、その核移行および共抑制活性を制御します(類似性による)。アセチル化はCTBP1との相互作用を無効にします。リン酸化はYWHAHとの相互作用を強化します。細胞内局在:個別の焦点に局在し、リガンド結合NR3C1に結合すると、より大きな核ドメインに再分布します。、サブユニット:リガンドの非存在下でNR2C1のリガンド結合ドメイン(LBD)と相互作用します。リガンド存在下でRARAおよびRXRBホモ二量体、ならびにRARA/RXRBヘテロ二量体と相互作用する。N末端ドメインを介してHDAC1およびHDAC3と相互作用する(類似性による)。CTBP1、CTBP2、ESR1、HDAC1、HDAC2、HDAC5、HDAC6、NR3C1、NR3C2、YWHAH、JUN、FOSと相互作用する。NR3C1およびYWHAHの両方と複合体を形成する。

研究分野

画像データ



293TのアセチルRIP140 (K158) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。抗体は1:500に希釈した。二次抗体は1:20000に希釈した。